

百人一首を覚えよう！ その2 (11～20)

1 1. わたの原 八十島かけて 漕ぎ出でぬと 人には告げよ 海女の釣舟
(わたのはら やそしまかけて こぎいでぬと ひとにはつげよ あまのつりぶね)

(参議篁 (さんぎたかむら) (802～852) 隠岐島へ) 「古今集」

1 2. 天つ風 雲の通ひ路 吹きとちよ をとめの姿 しばしとどめむ
(あまつかぜ くものかよひち ふきとちよ をとめのすがた しばしとどめむ)

(僧正遍照 (そうじょうへんじょう) (816～890) = 垣武天皇の孫) 「古今集」

1 3. 筑波嶺の 峰より落つる みなのがわ 恋ぞつもりて 淵となりぬる
(つくばねの みねよりおつる ながわ こひぞつもりて ふちとなりぬる)

(陽成院 (ようぜいいん) (868～949) 第57代天皇) 「後撰集」

1 4. 陸奥の しのぶもちずり 誰ゆゑに 乱れそめにし 我ならなくに
(みちのくの しんのぶもちずり たれゆゑに みだれそめにし われならなくに)

(河原左大臣 (かわらのさだいじん) (822～895) = 源融 (みなもとのとおる))
「古今集」

1 5. 君がため 春の野に出でて 若菜つむ 我が衣手に 雪は降りつつ
(きみがため はるののにいでて わかなつむ わがころもでに ゆきはふりつつ)

(光孝天皇 (こうこうてんのう) (830～887) 第58代天皇) 「古今集」

1 6. 立ち別れ いなばの山の 峰に生ふる まつとし聞かば 今帰り来む
(たちわかれ いなばのやまの みねにおふる まつとしきかば いまかえりこむ)

(中納言行平 (ちゅうなごんゆきひら) (818～893) 須磨流し) 「古今集」

1 7. ちはやぶる 神代も聞かず 龍田川 からくれなゐに 水くくるとは
(ちはやぶる かみよもきかず たつたがは からくれなゐに みずくくるとは)

(在原業平朝臣 (ありわらのなりひらあそん) 平安の美男子、伊勢物語モデル) 「古今集」

1 8. 住の江の 岸に寄る波 よるさへや 夢の通ひ路 人目よくらむ
(すみのえの きしによるなみ よるさへや ゆめのかよひち ひとめよくらむ)

(藤原敏行朝臣 (ふじわらのとしゆきあそん) (～901) 能書家) 「古今集」

1 9. 難波潟 短き蘆の ふしの間も 逢はでこのよを 過ぐしてよとや
(なにはがた みじかきあしの ふしのまも あはでこのよを すぐしてよとや)

(伊勢 (いせ) = 藤原継陰の娘) 「新古今集」

2 0. わびぬれば 今はた同じ 難波なる みをつくしても 逢はむとぞ思ふ
(わびぬれば いまはたおなじ なにはなる みをつくしても あはむとぞおもふ)

(元良親王 (もとよししんのう) (890～943) = 陽成天皇 (No.13) の第一皇子
= 光源氏のモデル?) 「後撰集」